

2019年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2018年8月10日
株式会社ゼネラル・オイスター



General Oyster

Copyright © General Oyster Inc. All Rights Reserved.

事業再生計画の進捗及び決算ハイライト

事業再生に向けた取り組みは計画通り進捗しており、営業損益ベースで第1四半期は対前年で損失幅を縮小させました。

事業再生計画の 進捗

「黒字化の実現を目的とした取り組み」について計画通り進捗

(取り組み例)

- グループ会社の取締役体制及び決裁権限見直しにより、ガバナンス体制強化完了。
- 売上高増加を目指した、サービス品質向上施策の検討・実施（飲食事業）や新規顧客開拓の推進（卸売事業）。
- 飲食事業における人員不足の解消（余分な残業代の削減）とシフト管理徹底による人件費低減。
- グループ全体での外注先見直し等の費用削減の徹底。

「価値最大化を目的とした取り組み」について計画通りに進捗

- 本部主導の人材採用プロジェクトチームを組成し、採用活動を活発化。

2019年3月期 第1四半期 ハイライト

- 不採算店舗閉店による店舗数減少にて、売上高は対前年で減少。
- 不採算店舗閉店や人件費等のコストコントロールを徹底したことにより、販管費を圧縮。
- 営業損益ベースでは例年飲食事業の業績が最も厳しくなる第1四半期において、損失幅を縮小。

2019年3月期 第1四半期 決算ハイライト

店舗数減少にて売上高は対前年で減少したものの、営業損益では不採算店閉店や経費削減により、**飲食事業の収支が最も厳しくなる第1四半期において損失幅が縮小**しました。

(百万円)	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	増減額	備考
売上高	850	822	▲28	・飲食事業は店舗数が減少 ・既存店対前年売上は99.1% とほぼ横ばい
EBITDA	▲70	▲37	+32	
営業利益	▲99	▲61	+38	・営業損益赤字幅が縮小
当期純利益 (※)	▲91	▲51	+40	
総資産	2,065	2,139	+75	
純資産	24	548	+525	

(※) 親会社株主に帰属する四半期純利益

2019年3月期 第1四半期 損益計算書

不採算店閉店や人件費コントロールの徹底により販管費削減が営業赤字幅縮小に寄与しました。

(百万円)	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	増減額	備考
売上高	850	822	▲28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食事業は店舗数が減少 ・ 既存店対前年売上は99.1%とほぼ横ばい
売上総利益	575	558	▲17	
販管費	674	620	▲54	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費削減△27M ・ 支払手数料削減△19M ・ 減価償却費減少△9M
営業利益	▲99	▲61	+38	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業損益赤字幅が縮小
当期純利益 (※)	▲91	▲51	+40	

(※) 親会社株主に帰属する四半期純利益



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。